

私が障害福祉サービス事業所で働くようになった訳



障害福祉事業所で働く前

私は中学生の頃、授業の一環で保育園に行くことがあり、その時の体験がきっかけで保育士になりたいと思うようになりました。

そのため、保育を専門に学べる高校・短大に進学しました。短大2年生の時の施設実習を麦の穂で行い、最初は障害を持っている方と、あまり関わりがなかったので「怖い」というイメージが強かったです。

しかし実習を通して障害をもっている方に対する「怖い」というイメージがなくなり、初めて見る実習生の私に明るく「おはようございます」や「ありがとうございます」など優しく挨拶をしてくれ、「柴崎さん」と名前も呼んでくれました。そんな温かいご利用者と作業をしたり、一緒に昼食を取ったりしているうちに最初は「怖い」と思っていた実習がいつの間にか「楽しい」という気持ちに変わっていました。実習最終日に、最後の挨拶をすると「寂しい」と言って涙を流してくれました。今までの実習の中でこんなにも充実していて、明日はご利用者と何を話そうかなど思ったのが初めてだったのでここで就職ができたかなと思っていました。

実習が終わって少しすると自宅に手紙が届き、内容は就職についての事でした。すぐに電話をかけ、就職試験に必要な書類をそろえ、試験を受け、就職が決まりました。





働き始めると

入社後に配属されたのは、大地となり、実習先だった麦の穂と比べると障害が重く、コミュニケーションも難しく、障害の重さが変わるとこんなにも支援が違うのかと思い悩むこともありました。そんな時支えてくれたのは、先輩職員でした。私にわからないことをわかるようになるまで何度も丁寧に教えてくれ、小さなことでもできるようになると「頑張ったね」と励ましてくれました。

そんな先輩の方々の支えもあって最初はどうか関わっていいのかわからない、コミュニケーションが上手くとれないなどの悩みが少しずつ減り、今では麦の穂の時とはまた違った「楽しさ」を見つけることができました。



これからの私

ご利用者ができることを見つけ、支援に結びつけていけるように心掛けていき、大地に楽しく通ってもらえるようにしたいです。

今後も障害についての知識を深め、色々な角度から支援ができるように頑張ります。後輩が入ってきた時には、悩み事や、難しいと感じていることがあったら、私に先輩職員にして頂いたように気持ちに寄り添えるような職員になりたいです。



所属部署 上司からのひとこと

2020年度は2名の新人社員が入社してくれました。その一人が柴崎さんです。私の年齢の半分にも満たないこともあり、「今の若者は！」と厳しく指導するつもりでしたが、任された仕事は淡々とこなし、今ではご利用者とも上手にコミュニケーションが取れるようになり、遠くから見守る日々となっています。(笑)

また、柴崎さんはおしゃれをすることが好きということもあり、渡辺MGRが以前、私に言ってくれた「支援者がおしゃれなのはいいこと。(度が過ぎない程度)おしゃれな人が介助してくれるのは、ご利用者も嫌な思いはしないと思う。」この言葉を贈ります。そして、柴崎さんの持っている武器「やさしさ」と「笑顔」。この2つは柴崎さんの言わば福祉職員としての武器です。大切にしてほしいと思います。

これからの柴崎さんに望むことは

- ① 障害に対して正しい理解を深めてほしい。
- ② 支援に困ったときは、一旦立ち止まって「自分だったらどうだろう」と常に相手の立場になって考えられる職員になってほしい。
- ③ 社会人として働くことの大切さや楽しさ・難しさを学んでほしい。毎日が日々勉強です。いつでもご利用者に寄り添い過ごす時間を大切に成長してくれると嬉しいです。

大地支援課長 細川 竜太

柴崎 理与 (しばさき りよ) 平成11年生まれ 山村学園短期大学 令和2年3月卒業
令和2年4月 社会福祉法人健翔会へ入職
入職後、健翔会の運営する障害福祉サービス事業所 大地に所属される
健翔会 大地 行田市小見1144-2 電話：048-555-6166